

平成28年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成28年7月14日（木）午後6時～
- 会場 阿寒町公民館
- 参加者 18人

【市長挨拶】

〇はじめに

大変お忙しいところ、またお仕事でお疲れのところ、市政懇談会にご出席いただきまして感謝を申し上げます。

市政懇談会では、市が取り組もうとしていることを説明し、事前にいただいた質問に回答しながら、皆さんと一緒に進めていこうというものであります。よろしくお願いいたします。

〇阿寒丹頂の里の地域活性化の取り組みについて

今年3月12日には、阿寒インターチェンジが開通し、本当にうれしく思っております。吉田会長を実行委員長に迎え、阿寒のさまざまな方々にご来場いただき、この会場で祝賀会を開催したところです。

この阿寒インターチェンジの開通の効果について、開発建設部から伝えられたところでは、今年のゴールデンウィークには1日約9,900台、約1万台弱の車が通っており、天気の悪い中で、昨年と比較して道東道の利用が40%増となっています。

特に道の駅「阿寒丹頂の里」では売り上げが非常に伸びており、昨年12月にマルシェがオープンしたこともあり、売上高で2.5倍に増えているとのことです。道路の開通によって新たな観光ルートが形成されていることの現れであると考えております。

丹頂の里において今年11月に新しいインフォメーションセンターを開設するため、現在建設中で、開設に合わせていろいろなイベントを予定しています。

阿寒町商工会が中心となって進めている阿寒産の野菜を使ったドレッシングの商品化や、全日空の企画による、犬と一緒に旅行するツアーの時にはドッグランを造り人気を得たということで、全国ニュースでも放送されております。今後いろいろな面で阿寒丹頂の里エリアを充実させていけるのではないかと考えています。

今後は阿寒地区の商工業者や農業の方に入っていただいております「阿寒丹頂の里プロジェクト委員会」や、本年度から阿寒町商工会で進めている「まちなか魅力づくり委員会」と連携を図り、阿寒インターチェンジや釧路空港等を利用する方が立ち寄りたくなる丹頂の里エリアを作っていく取り組みを進めていきますので、よろしくお願いいたします。

○観光振興の取り組みについて

今年、観光についての明るいニュースがありました。

まず、観光立国ショーケースへの選定です。金沢市、長崎市とともに釧路が、全国3都市の「観光立国ショーケース」に選定されました。「観光立国ショーケース」は、2020年のオリンピックを目指し、訪日外国人観光客をゴールデンルートと呼ばれる東京・京都・大阪などの観光ルートから地方へ誘導するモデルケースを形成しようとする国の施策です。庁内でも全庁横断的なプロジェクトチームを作り、取り組みを進めているところで、国と話し合いをしている最中です。皆さんからいろいろなご意見をいただく場面も作りながら、観光立国ショーケースの取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、まだ確定していませんが、何とか獲得しようとしているのが「国立公園満喫プロジェクト」です。これは国が、全国の32国立公園の中から、今後5カ所程度の国立公園を選定し、今までは国立公園は保護していくものでしたが、今後、保護と利用促進を図り、利用していくためのモデルの公園を作っていくというものです。先日は、北海道知事、釧路市と関係団体とで環境省に要請を行ってまいりました。全国32カ所の国立公園の中から5カ所を選定するということから、割合で言うと6カ所に一つぐらいになります。北海道の6カ所の国立公園のうち2つが釧路にあり、それが阿寒と釧路湿原ということで、他に4カ所がある中で知事が阿寒国立公園の選定について私どもと一緒に要請してくれたのは非常に大きいことと思っています。

観光立国ショーケース、国立公園満喫プロジェクト、これらをしっかり活用し魅力を創りながら、阿寒湖畔を含む阿寒地域の活性化に結び付けていければと考えているところです。いろいろな場面で阿寒の情報等を発信していくことが重要だと思っています。

また、動物園の白くま「ミルク」を題材にしたキャラクターを用いて東京のコーチャンフォー若葉台店、全国4カ所の図書館で、暑い地域に暮らす全国の皆さんに釧路の涼しさをPRし、釧路の知名度アップと長期滞在者や観光客の誘客を図っています。

○釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みについて

釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてご説明させていただきます。

釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少にしっかりと立ち向かっていくということで策定したものです。今後のまちづくりを考えるうえで、人口減少は避けることのできない課題であり、これに真正面から立ち向かっていくため「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。地方創生により全国の都市で総合戦略を作るようになっており、市では昨年12月に策定しております。

釧路では平成22年に人口18万1千人のところ平成52年には約10万6千人になる推計がでています。この人口減少に対し、しっかり戦略を作っていこうというものです。国の場合は人口減少を防ぐためには、子どもの数を

増やすことと、もう一つには長寿命化社会となることで人口が増えることとなります。1970年くらいから少子化は日本で問題となっていました。長寿命化のために少子化の部分はカバーされてきました。国では、子どもの数を増やすため、結婚、出産から子育てに対応していくことが主眼になっております。地方都市では少子化もありますが、15歳から19歳、20歳から24歳の年齢層で、転出超過となり人口流出が進んでいます。ほとんどの地方都市がこのような傾向になっていると思っています。転出超過になる理由の一つは進学ですが、一番大きな原因は、就職、働く場所になります。地方に働く場所がないために他のまちに出ざるを得ないことによって転出超過になっており、人口減少の原因は少子化に加え構造的な問題となっています。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中では目標を作っており、このままでは2040年には人口が10万6千人になるのを、プラス3万2千人して、2040年の目標人口を13万8千人としております。

合計特殊出生率の1.35という数字も、平成52年に2.07を目指すこととしております。この2.07は、今の人口を維持していくための数字になります。また、転出を10%減らし、入ってくる人を10%増やして目標の13万8千人と人口を確保していくことが総合戦略の基本となります。

人口減少を「食い止める」「補完する」「対応する」、この3本の矢で立ち向かっていくこととしました。

その中でも最優先課題は「域内循環」と「外から稼ぐ」ということです。域内循環については、平成21年に釧路市で策定した中小企業基本条例でも、域内循環と外から稼ぐということを中心にしています。今はインターネットなどで物を買うことがあり、市外の事業者が多い中で、市内でお金を使ってもらおうというのが域内循環の考え方です。

外から稼ぐということは、単に原料を出していくのではなく、付加価値をつけて適正な価格で売って外から稼いでくることが大事との考え方です。

4つの重点戦略、5つの基本目標の策定により、KPIといいますが、数値目標をしっかりと考えてさまざまな施策の展開を図っていくものです。

基本目標1「雇用の創出を図る」では、「市内総生産5,731億円を6,500億円にする」という目標と、「宿泊客数129万人を157万人にする」という目標を掲げております。

基本目標の2「釧路らしさを活かして人を呼び込み、呼び戻す」では、転入者の数6,300人余りを8,000人に増やし、長期滞在者も増やしていく数値目標としています。

基本目標3「子どもを産み育てたいという希望をかなえる」では、少子化にしっかり対応していくということで、結婚や妊娠への環境を整え、1年間に生まれてくる子どもの数を現在の1,158人から1,500人にしていこうというものです。出生数は団塊の世代の時は4,000人を超えていたものであり、いかに子供の数が減っているかが分かります。特殊合計出生率の1.35を平成32年には1.50にしようとしています。

基本目標4「安心な暮らしをつくる」では、地域を支える福祉の支援体制や医療福祉サービスの充実を掲げ、「医療従事者の数を3,960人から4,000人にする」ほか、特別養護老人ホームの定員を増やすこととしています。

基本目標5「人口減少に対応した地域をつくる」では、コンパクトなまちづくりを進めていくものです。

釧路は昭和52年には人口22万人で、その時に25万人を目指したまちづくりをしてきたところですが、現在住民基本台帳の数字は17万6千人です。20万人で100の施設を作るとして市民が負担する割合と、10万人で100の施設を負担するというのでは負担率は倍となるように、今までと同じことを同じようにやっていたのでは、市民の皆さんの負担率が高くなるため、ここを踏まえていろいろな対策をとっていかうということがコンパクトなまちづくりの考え方で、交通ネットワークの充実などにより、負担の増えないようなまちづくりを進めていきます。

具体的にお話ししていきますと、基本目標1の「地域経済のプラス成長を雇用の創出を図る」うえでも、「地場産品の振興と普及」が重要な観点であります。エゾシカ肉や根釧牛乳の普及を図っているほか、「釧路ししやも」や「釧路定置トキシラズ」はブランド化によって全国に同じ基準で販売しながら、外貨を稼いでいかうとするものです。また釧路は、阿寒、音別との合併により市の面積の74%が森林になり、生産と消費が一体になったまちとなったものです。その強みを生かしていくため、生産と消費、川上から川下まで一体的に連携し、木をしっかりと使いながら山を守る取り組みをするプロジェクトを進め、非常に成果が出ているところです。こういった中で、地元の鹿革を使って、地元の工業技術センターを使い、家具やネームホルダーを製品化することで、山を適切に管理することにつながっていきます。

阿寒マルシェは、地元の物、管内の物を利活用しながら良い成果が出ているところで、更に充実させていきたいと思っています。

また、民間事業と連携して進めているものでは、楽天のネットワークを使ったインターネットでの情報発信や、イトーヨーカドーとの連携では、3月8日をサバの日として、イトーヨーカドー釧路店が中心となり、東京のいくつかの店舗でも同様に、北釧サバを販売しています。このように地場産品を地元の中で高めながら、外に発信していくことに取り組んでいます。

基本目標の4「安心な暮らしをつくる」に関して、市立釧路総合病院の新棟建設についてお話しさせていただきます。

市立病院は、釧路・根室管内いわゆる三次医療圏で唯一の地方センター病院として、最も重要な病院に位置づけられています。

地域に高度な役割を持つ病院がなければ、何かの時には地元で診てもらうことができず、札幌などへ行かなければならなくなってしまうわけで、釧路の生活圏域にしっかりと機能を持つことが重要であります。また、市立病院はドクターヘリの基地としての機能を持っており、釧路・根室、十勝、オホーツクまでをカバーし、1年間で496回出動しているところです。この体制があること

で、日中はどこにいてもしっかり患者を運べる体制を担っているのが市立病院です。

市立病院の建物は昭和59年に建てて30年余りが経過し、施設、設備の老朽化が進み、併せて医療機器が進歩により大型化しており、最新の大型医療機器を導入するためにも新棟の建設計画を策定したところです。

新病院では「地方センター病院」の主な役割や機能として、まず「救急医療の充実」をあげています。これは、高度で集中治療を行う病床を、現在の16床から、救急患者専用の16床と院内手術後の重症患者専用の12床に機能を分化し、医療サービスの向上を図るものです。そして「災害医療の充実」として、電気や燃料等のエネルギーと水の確保を、現在の1日分から最低3日分を確保することとし、医療活動が途切れることなく継続して提供できるよう整備します。

この建設計画でかかる費用は255億円となっており、随分多いと思われる方もいると思われます。市立病院の収入は年間約150億円で、ここから経費を引き黒字となっているところで、150億円の収入規模の中で建設費255億円の規模の大きさについては、ご理解いただけるかと思っています。収支計画をしっかり持ち、計画を進めていくことにしています。

次は地域のコミュニティの重要性についてですが阿寒地域はすばらしい地域コミュニティを既に作っていただいておりますので、これからもお願い申し上げます。

○釧路市まちづくり基本構想の策定について

最後に「釧路市まちづくり基本構想」についてお話しいたします。

今までは国の法律に基づき、釧路市総合計画を策定していましたが、策定の義務がなくなりました。しかし、昨年10月に施行したまちづくり基本条例の中に、議会・市民・行政が一体となってまちづくりを進めていくことを規定しており、共通の理念として「釧路市まちづくり基本構想」を作ることといたしました。

現在の総合計画は平成29年度末までとなっており、基本構想の策定にあたっては平成30年度から10年間の計画を立て、どのようにまちづくりを進めていくか、皆さんとしっかりと議論していきたいと考えております。

また、アンケートなどにより、皆さんのご意見をお聞きする機会を設けたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【地域からいただいた課題等への回答】

○阿寒町総合福祉センター跡地の利用について（阿寒町行政センター長）

旧阿寒町総合福祉センターの解体については、7月24日のふるさとまつり開催後に着工し、年内の完了を予定しているところで、跡地の利活用については、阿寒町行政センターと隣接していることから一体的に管理し、「阿寒ふるさとまつり」などの地域イベントの開催に有効活用していくこととしておりま

すが、現時点では公共施設用地としての具体的な活用計画をもっておりません。

阿寒地域においては、本年3月に生鮮食料品店1店が閉店するなど、ここ数年商店の閉店・廃業等が発生しており、地域の商業環境が大きく変化していることに加えて、今後、経営者の高齢化や後継者不足などにより、既存店舗の減少も想定されることから、地域における商業機能の安定的な確保を近い将来解決すべき重要な課題と捉えており、このことも含めて地元商工会をはじめ関係機関、団体等と連携を図るとともに地域の意見も聞きながら、地域の振興を図るため、当該跡地の活用策について検討していきたいと考えております。

○富士見公園の公衆トイレについて（都市整備部長）

富士見公園の林間に設置しているトイレは、例年5月に月1回、6月から11月までは月15回の清掃を実施し、清潔かつ衛生的に利用できるよう努めており、周辺につきましても草刈りを実施しているところです。ご要望のありました周囲の樹木は平成元年の建設時から大きく成長し、葉が開き始めると南側にあることもあり年々日当たりが悪くなってきていますので、状況をみながら適時枝払い等の対応を行い、快適に利用できるよう維持管理に努めてまいりたいと考えております。

●質疑応答

【参加者A】

4月に富士見町にクリニックが開院したことによる、阿寒診療所の経営への影響をお聞きしたいと思います。

【阿寒町行政センター長】

4月から阿寒地域で病院が開院し、施設の入所者のリハビリや人工透析の患者を中心に診療を行っていると聞いております。市の診療所については4月以降も外来の患者数は減っておりませんので、今のところ影響はありません。

【参加者B】

先日、北海道新聞に『アベニュークシロの閉館によって、釧路駅前地区に買い物難民が出るのではないか』という釧路市連合町内会西村会長の談話が掲載されておりました。阿寒本町でも3月に1軒が閉店、1軒残っているお店もやめたいという話があり、このまま店がなくなりコンビニだけになってしまったら阿寒のまちはどうなるのか、車を持っている人は釧路まで走れるけれども車を持たない高齢者は買い物に困るのではないかとこの相談を受けております。事前質問にありました「総合福祉センター跡地の利用」について、センター長はいろんな方の声を聞きたいとの答えでしたが、どのくらいのスピードで聞いていくのかについて伺いたいと思います。

【阿寒町行政センター長】

3月に1軒が閉店した際は速やかに事実を把握し地元町内会、商工会とも連携を取らせていただいたところです。

商工会として阿寒本町地区の今後のビジョンについて、近い将来と先のことまで踏まえて解決策を考えていかなければなりません。現在困っている点をどうするかということも大事ですが、仮に量販店が本町に出店となったら、今がどうで10年後にどうなるのか、トータル的に判断が必要です。

商工会の会長にもご相談し、どういった形が取れるか議論しているところです。まちの皆さんの声も聞きながら、早急に今、行政ができる対応を考えている中で、連合町内会長にもご相談させていただきたいと思います。

【参加者A】

病院についてお聞きします。市立阿寒病院が診療所になりましたが、サービス面や対応が全く変わらないことに感謝しております。今、札幌から月に2回、循環器科と泌尿器科の先生が来ており、これを継続していただけるとありがたいと考えております。

私は10年ほど釧路の市立病院に月1回通っており、その時は予約していても朝7時に家を出て午後1時半くらいまでかかりました。札幌から先生が来ていただけるようになって1時間ほどの待ち時間で済むようになり、感謝しています。この体制を継続していくことを市長にもお願いしたいと思います。

【阿寒町行政センター長】

阿寒診療所は整形と内科の医師が常勤で、循環器と泌尿器科については月に1回来ていただいております。行政センターとしても今後も継続して、地域の医療が確保できるようにしていきたいと思います。

【市長】

まちづくりで「衣食住」とは、着るもの、食べるもの、住むところと、生活にとって必要な生活様式を表した言葉ですが、今の時代は「衣」の部分の漢字を変えて「医療」の「医」、医療と食料と住むところと言われております。そして安全安心という言葉をつけ加えて、安全安心な医療体制、安全安心な食料、安全安心な地域、ここを基本として、しっかりと地域を守っていくことが重要だと考えているところです。

【参加者C】

先日、商工会の会議で、子育て中のお母さんたちから聞いた要望ですが、子どもを預けるところがなく、また、冬場の遊び場がないことに困っているとのことです。これから人口増加を目指す釧路では、若いお母さん方の意見も大事だと思います。

【阿寒町行政センター長】

子育てに必要な保育所、託児所については、現在、阿寒幼稚園の放課後児童クラブと社会福祉協議会の事業があります。お母さん方が働くことにしっかり専念できるかということとを考慮し、社会福祉協議会とも相談しながら対応していきたいと思います。小さなお子さんが遊べる場所について、道の駅の野営場には池や遊具があってお子さん連れの方にも来ていただいております。また、ドッグ

ランを作り、犬を連れて遊びに来られるようにしております。今後、新しくインフォメーションセンターを作り、トータル的な遊びの場にしたいと考えているところです。阿寒本町地区においても、公園や公民館のオープンスペースなど、地域で子どもたちが遊べるスペースについて考えていきたいと思っております。

【市長】

若い人の意見を取り入れることは、地域づくりにとって重要なことだと考えており、先ほどお話しした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、進捗管理のために委員会を作り、この委員会には極力若い方や女性を登用しており、特に女性の委員は約5割となっております。併せて、これから策定する基本構想に係る委員会の委員も半数が女性で、若い方にも参加していただいております。子育ての真ただ中ということで、第1回目の委員会にはお子さんを連れて出席された方もおられました。

この他にも女性の意見を聞く場や、将来のまちづくりに向け、いろいろなご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。